

自由記述申請書

①留学によってどんな自分になりたいのか

第一の目標として、専門知識と教養を兼ね備えた人間になりたいと思っています。私は、現在日本で教養学部にも所属していて、自分の専攻に焦点を傾倒した勉強というよりは、経済学、物理学、情報科学など、比較的幅広い分野を学んできました。もちろん、多様な視点を得て、より善く判断するという観点に於いては、教養を身につけることは重要であると思います。しかしながら、私にとって教養とは、“何をすべきか”という哲学的問いには答えを提示するかもしれませんが、“何ができるか”という実質的問いには寄与しないように思えます。したがって、私は、自分が何をなし得るか、社会に対してどう貢献できるかと考えるときに、自分の専門知識を確立すること必要条件であるように感じます。ゆえに、私は交換留学を通して、自分の専攻分野の学部で学び、専門知識をより深め、“何をすべきか”と共に“何ができるか”を把握した人間になりたいと思っています。

第二の目標として、自分の将来のキャリアを明確にしたいと思っています。現在、私の専攻は数学なのですが、より社会に影響のある仕事に就きたいため、将来は応用数学の分野に進み、数学の専門知識を IT 技術や経済分析に活かしたいと思っています。しかしながら、想像に難くないように、数学という学問は実際の社会との繋がりが見えにくいと感じます。この点に於いて、今回の交換留学は大きな可能性を持っています。というのも、私の留学先はカリフォルニア大学であるため、IT 産業の集積地であるシリコンバレーの近くに位置しているからです。そのため、留学を通して、インターンや企業訪問を積極的に行い、どのような研究があるのか、その研究に貢献するために自分が今何を学べば良いかを知ろうと思います。このような経験は、自分の将来的なキャリアについてより具体的なイメージを思い描かせるのみでなく、自分の知識を、より社会に還元できるものにならしめると思います。

②困難を克服した経験

高校時代の話をしたしたいと思います。私は、高校時代、文科系の学科に所属していたため、学校の授業も国語、社会や英語などが中心でした。しかしながら、1年次にだけ授業で学習した数学に興味を持ち、以来、自分の知的好奇心に従って勉強を進めた結果、大学では数学を専攻しています。このような学習過程は非常に効率の悪いものでしたが、周囲の環境に流されず、自分が主体となって私の望む進路に進もうとしてきました。かくして、この経験は現在でも、私が「意識次第で自分の求める進路は切り開かれる」と思う際の根拠になっております。今後においても、状況が芳しくなくとも、努力次第でどうにでもなるという自信を与え続けてくれると思います。

③トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムに対して自身が貢献できると考えること

正直、この点については考えてしまいました。少々漠然としてしまうかもしれませんが、私ができることは、短期的には、留学のノウハウや体験談を積極的に共有することにより、

トビタテの制度自体の改善や、後にトビタテを利用する人がより留学を充実したものにす
る助けができると思います。また長期的には、自分がトビタテによって助けられた恩返しと
して、より多くの意欲を持った人がトビタテの支援を受けられるように、今度は自分が出資
できる立場になれば嬉しいです。

④その他アピールできるポイント

最初に、私の一番の性格はその学習欲、好奇心の強さだと思います。②でも述べたように、
興味を持ったことに対しては環境がどうであれ主体的に学習しようと努めます。また、私の
好奇心は学習に対してのみ顕著に表れるのではありません。例えば、現在通っている大学で
は、Study For Two という学生主体で発展途上国に教育支援を行うボランティア団体の大学
支部の立ち上げに携わり、支部設立以来の1年強の間、ウェブサイトを作成したり、活動を
軌道に乗せたりするなど、様々な新しいことに挑戦してきました。したがって、留学先でも、
興味を持ったことに対し積極的にチャレンジできると思います。

ついで、私の特徴として、物事を分かりやすく伝える能力が挙げられると思います。私は
高校時代、英語ディベート部に所属していたのですが、ディベートでは論点を明確に、分か
りやすく、しかも簡潔に伝えることが求められるため、部の活動を通して“伝える能力”が磨
かれたと思います。結果として、日本高校生パラメンタリーディベート連盟の主催する大
会である HPDU Competition 2014 では、120 名中第9位となりました。また、大学生にな
ってからも、練馬区で中学生、小学生などに勉強を教えるボランティアや、家庭教師のアル
バイトを続けていることもあり、勉強を分かりやすく伝えることによって伝える力がより
向上したと感じます。私は、このような情報を発信する能力は非常に大切だと考えています。
というのも、私は将来的に数学を使った技術者になりたいのですが、①で言及したように、
専門知識や技術は“何ができるか”を教えても、“何をすべきか”は示さないため、技術を開
発する者自身として、“何をすべきか”を伝える必要があると感じるからです。技術はそれ
自体善でも悪でもありません。使い方によって全て決まると思います。だから私は、技術の
発展に寄与する者として、“何をすべきか”まで伝えられる人間になりたいです。

最後に、私はボランティアに対して積極的な人間です。前に触れたように、大学生になっ
て以来、小中学生に勉強を教えるボランティアや、ボランティア団体の設立に関わってきま
した。このような活動の根底にあるのは、私の“自分の周囲の人間と共に助け合って生きて
い”という思いからです。私は、今まで多くの人に助けられ生きてきました。それは今後も
変わらぬことと思います。だから私も同じように、他人に資するように生きていきたいと
考えます。したがって、前述の“何をすべきか”は、このような考え方から漠然と、“人に、社会に貢
献すること”と答えられます。ここで言う社会や人はもちろん日本に限られたことではあり
ません。ゆえに、どのように人に寄与できるかと考える際は、より地球規模な、俯瞰的な視
点が必要であります。しかしながら、私は、まだそのような視点を持っていないように思え
ます。だから私は、この留学がそのヒントだけでも与えてくれれば非常に嬉しく思います。